

演題番号：E8

三重県における TNR 活動による猫の殺処分数減少の取組

○長岡穂波¹⁾，嶋 剛士²⁾，岩城多佳子¹⁾，佐々木友美¹⁾

¹⁾ 三重県動物愛護推進センター ²⁾ 三重県医療保健部食品安全課

1. はじめに：当県では、猫の殺処分数の減少や飼い主のいない猫による諸問題の解決に向け、TNR 活動の支援を行っており、平成 26 年度に伊賀地区を中心に公益財団法人どうぶつ基金と連携した取組を開始した。平成 29 年度の三重県動物愛護推進センター開所後は県全体で実施、平成 30 年度からはクラウドファンディングを活用し、三重県獣医師会と連携して実施している。今回、本事業の効果検証を行うとともに、今後の業務改善に資するため、関係職員に対しアンケート調査を行った。

2. 材料及び方法：平成 30 年度から令和 4 年度までの 5 年間の手術数並びに、事業の効果を表すと考えられる指標として、猫の収容数、殺処分数及び苦情相談件数を集計した。また、県職員等の関係者に対し、事業の満足度等に関するアンケート調査を行った。

3. 結果：手術数は 5 年間で 6,482 匹、収容数、殺処分数、苦情相談件数は、概ね毎年減少しており、平成 30 年度と令和 4 年度の比較では、収容数 56% 減、殺処分数 72% 減、苦情相談件数 26% 減であった。なお、やむを得ず殺処分を行った猫の数は令和 4 年度にゼロを達成した。アンケート調査では、飼

い主のいない猫に関する苦情相談を受けた経験がある職員のうち、91%が TNR を提案しており、全員が提案して良かったと回答した。主な理由は、相談者の理解が得られた、解決策が提案でき対応する職員の負担軽減になった等であった。事業の継続に関しては、98%が現在の手術数を維持又は増加して継続することを希望した。その他、地域の実情に応じた柔軟な対応を求める声や TNR 活動から地域猫活動に移行できるよう、管理に関する啓発にも力を入れるべきとの声が複数あった。

4. 考察および結語：直近 5 年間の集計から、猫の収容数、殺処分数及び苦情相談件数はいずれも減少しており、本事業により一定の効果があつたと考えられた。アンケート結果からは、事業の効果を実感している職員が多いことが伺えた。また、ほとんどの職員が規模を維持・拡大して事業を継続することを希望したことから、今年度はセンターでの手術回数を増やして実施している。今後は、本事業を継続しつつ、地域の実情に応じて柔軟に対応する工夫や、地域猫活動への移行を見据え、職員の知識やスキル向上の取組等も併せて実施し、飼い主のいない猫による諸問題のスムーズな解決や猫の殺処分数の更なる減少に繋げていきたい。